

第4回 苫小牧市行政改革推進審議会 議事録

日 時	平成29年8月24日(木) 15:00 ~ 17:10
場 所	市役所9階 第2委員会室
出席委員	池永委員、石田委員、石森委員、加賀谷委員、川島委員、公地委員、菅原委員、杉立委員、須田委員、滝本委員、中瀬委員、中村委員、藤田委員、松村委員(敬称略、五十音順)
事務局	行政監理室
会議次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1 開会</li><li>2 会長挨拶</li><li>3 議題 行政改革プラン-NEXT STAGE-の見直しについて</li><li>4 その他</li><li>5 閉会</li></ol>

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>定刻となりましたので、ただ今から、第4回苫小牧市行政改革推進審議会を開催いたします。</p> <p>開催に先立ちまして、石森会長より一言御挨拶をお願いします。</p>
石森会長	<p>皆様、本日はお忙しい中、審議会に御出席いただきまして感謝申し上げます。</p> <p>お手元に「行革ニュース」が配られておりますが、前回の審議会で取りまとめた「行政改革プラン－NEXT STAGE－平成28年度進捗状況及び取組の有効性に関する意見書」を8月3日に市長へ提出させていただきました。</p> <p>本日は、御案内のとおり、行政改革プランの見直しについて、委員の皆様から御意見をいただきたいと思っております。</p> <p>本日の議論を踏まえ、審議会からの答申書を作成していきたいと思っておりますので、忌憚のない御意見をお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これからの議事進行につきましては、石森会長にお願いしたいと思います。</p>
石森会長	<p>それでは、議題の『行政改革プラン－NEXT STAGE－の見直しについて』に入りたいと思っております。</p> <p>本日は、御案内のとおり、委員の皆様から、プランの見直しに関する意見をいただくことになっております。</p> <p>前回の審議会にて、事務局より、見直しに関する意見を記入するための用紙をいただいておりますが、本日は、御持参いただいた用紙をもとに、委員各自から意見を発表していただき、その後、見直しに関する議論に入りたいと思っております。</p> <p>それでは、早速ですが、池永委員より、時計回りで順に発表をお願いいたします。</p>
池永委員	<p>以前、住んでいた福岡市にて、行政の方と一緒にイベントを開催させていただいたことや、苫小牧市に移住してきて、比較して気が付いた点などの意見を書かせていただきました。</p> <p>1点目ですが、作成した動画をケーブルテレビで流してもらった方が効果的だと思います。これからは、情報を捨てていく時代となるので、情報が相手側に引っかけられないといけません。相手から探してもらうのではなく、情報を受動的に受け取る仕組みが必要であると考えます。また、市役所庁舎内に無料Wi-Fiを導入した取組と、同じ庁舎</p>

内で作成した動画を流していることが、私にはどうしても矛盾していると思えます。無料Wi-Fiがあるということは、スマートフォンなどを利用してほしいということですが、同じ場所で動画を流している。一体どちらを見て欲しいのかなと思い、このように書かせてもらいました。

2点目は、若年層には、メールよりLINEの方が効果的だと思います。せっかく苫小牧市には、とまチョップという可愛いキャラクターがいるので、毎日メッセージ付きの天気予報ですとか名言があれば、朝から苫小牧市民は嬉しい気持ちになりますし、そこから市のお知らせを受け取ることができれば、見逃さずに済むと思います。そういった点では、子育て世代に配信している、とまっこメールは、プッシュ型でとても良いと思っています。福岡市では、警察のゆるキャラや消防署のゆるキャラなど、ゆるキャラが氾濫しすぎていましたが、苫小牧市は、とまチョップで、ある程度統一されています。赤ちゃんから年配の方まで皆が知っているとまチョップ。だから、とまチョップを使ったあらゆる層への働きかけが有効だと思います。

3点目ですが、苫小牧市には福祉バスが通っているイメージが私はなくて、最後に福岡市の隣の大野城市に住んでいましたが、福祉バスは通っていました。私が苫小牧市で見かけていないだけなのかもしれませんが、東西に長く、とにかく東部ばかりが繁栄していて、駅前が何でこんなにも寂しいのだろうと。自分も寂しくなるような気がして、東西を通るバスがあったら、もっと良いのになと思います。友達に双子のお母さんがいるのですが、福岡や大野城では、当たり前双子ちゃんサークルとかもあり、そういうのが広報にも載っています。多胎児を支えようという福祉の面がありました。生んだ後に困ったというよりは、生む前から、子育て世代が福祉の存在を知っていることが大事だと思うので、福祉というのはどのような概念であるのか。例えば、母親学級とか市役所の窓口でなど、色々な機会でお知らせしてくれると嬉しいなと思います。

次に、まちかどミーティングですが、参加できるのはごく一部の人で、私は正直参加できません。平日の夜に子どもがいて、寝るのが遅くなるなどか、明日のことを考えると行けないです。でも、もしかしたら乳幼児にお弁当を持たせて託児ができますよとかがあったら時間を作って行けるかもしれないし、小・中学生は、宿題とお弁当を一緒に持ってきていいですよなど言ってもらえるのであれば、それなら参加できるかなと思いますので、まちかどミーティングについても、色々

と工夫していただくと参加しやすいなと思いました。この間、子育て審議会の傍聴に行きたくて、託児も申し込んだのですが、次の日のことを考えるとどうしても行けなくて、悔しい想いをしましたので、参加しやすい環境にして、市民サービスに直結させると良いと思います。

新たに取り組むべき点ですが、民間のパワーを感じないと書かせてもらいました。母親学級に参加させていただきましたが、市役所の職員の方が、にこやかにすごく温かくお話してくれました。その方の対応がすごく嬉しくて好きだなと思いました。民間委託を進めている施設に行くときちょっと寂しい感じがします。温かさを感じないときがあって、職員の方が施設を見に行ったときにどのように感じているのかなと思います。もっとこんなふうにしてもらえないだろうかなど、委託の中でも、もっと要望があれば良いなと思います。

2点目は、日本女性会議です。地方開催は珍しいとのことで、私も教育の分科会に参加させていただいておりますが、このままだと人が集まるのは難しいのではないのかと感じます。私は友達を誘いたいと思っています。この世代の私達が学ぶことによって、子ども達も育っていくので、PRしていきたいと思いますが、3,500円を払って友達が来るだろうかと不安に思います。会費以上の価値があることをPRしていかないと、大会への参加や、その後の子ども達が男女平等参画の実現をしていくのは、とても難しいなと思います。

最後に見直すべき点ですが、先進都市から学ぶことも必要ですが、苫小牧市にしかできないことを追求することの方が必要であると私は感じています。また、市の取組が市民に伝わりにくいなと感じています。広報紙などを見させてもらっていますが、議員さんの話ごとに文章の体裁が違って、読みづらいなと思うこともありますし、読んでいてわかりやすく入ってくるのは、マンガやビフォーアフターなどです。市役所の方も時間が無いでしょうけど、一般市民も時間が無い。時間が無い中で、伝える工夫をしていくのが良いと思いました。

次に、市民ホールの設置についてですが、ホールを建設したが、上手く活用できなかった都市もいっぱいあると思っています。成功事例を研究することも、もちろん必要だと思いますが、失敗事例、何故失敗してしまったのかという逆の事例も研究しておく、失敗の回避につながるのではないかと考えています。

その他ですが、財政の節約はとても上手くいっているの、市民としては、とてもありがたく思います。削るべきところは既に削っているので、あとは内容の精査の時期にきていると思います。東西の格差

	がもっとなくなると良いと思いました。以上です。
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>池永委員の意見に関して、御質問等はございませんか。</p> <p>Wi-Fiについては、我が社のターミナルもそうですが、あるのが当然という感じになっていますよね。それを使ってという意識があまり無いのですよ。</p>
事務局	<p>Wi-Fiについては、例えば庁舎1階は、証明交付の待ち時間などを、いかに短く感じていただくかというところも踏まえて、導入の取組をしたところですよ。</p> <p>今後は、その次の展開については、何か工夫が必要だと思います。</p>
石森会長	<p>確かに池永委員のおっしゃるとおり、市民受けが良くなる工夫ですとか、サービスの改善というのは大きいと思います。</p> <p>とまチョップを活用したサービスも良いと思いますね。</p>
事務局	<p>例えば、朝に今日は何のゴミの日ですとお知らせするアプリなども、他の自治体で実施しているようです。</p> <p>今回の見直しや次のプランにて取り組むことができないか担当部署と協議してみたいと思っています。</p>
石森会長	福祉バスはあるのですか。
事務局	地域限定の運行型バスは、西の樽前地区や東の植苗地区にありますが、委員の皆さんがイメージされているのは、どのようなバスですか。
池永委員	そのバスに乗ると市役所まで来れるのですか。
石森会長	<p>そういったバスは無いですよ。</p> <p>例えば、お年寄りが、そのバスに乗ると市役所まで来れるとか。</p>
松村委員	その代わりに、無料のパスはありますよね。
事務局	70歳以上の方が市内の路線バスをワンコインで乗れるバス券を交付しています。昔は無料でしたが、高齢者が増えて財政負担が多くなったので、現在は100円だけ負担していただいています。
松村委員	それが、福祉バスの代わりということですね。
石森会長	<p>やはり、苫小牧市はウナギの寝床のように東西に長い街なので、循環型というよりは行って帰ってくるという感じですよ。</p> <p>これからは、買い物難民などの問題もあるので、色々な対策につながるかもしれませんね。</p>
川島副会長	お伺いしたいのですが、池永委員がおっしゃっている福祉バスというのは、例えば、イオンバスが駅前や市役所に来るといようなイメージですか。西のある地点、東のある地点、そして駅前の地点から、随時市役所を目指すシャトルみたいなものでしょうか。

池永委員	<p>私が見たのは、市内全体を回る循環型バスでした。車体に福祉バスと書いてあるので、市民は皆、福祉バスが走っているということがわかる。</p> <p>でも、高齢者がワンコインでバスに乗れるとかは、皆知っているわけでは無いと思います。皆に伝わるようにすれば良いなと思います。</p>
石森会長	<p>これは、行政全体につながるのですが、やはりPRが非常に大事だと思います。</p> <p>それでは、次に公地委員からお願いします。</p>
公地委員	<p>私からは、民間委託の効果検証というところで、前回の審議会でもお話をさせていただきましたが、担当課や職員の負担ですとか、検証体制の確立が必要と考えますので、その辺の見直しを図るべきという意見を書かせていただきました。</p> <p>次に、事務事業の継続的な見直しです。街路灯がLED化されたことで、非常に効果があったというお話でしたが、危機管理の部分については、どこの町内会もお年寄りが多い中、特に自分の町内会もそうですが緊急避難場所まで歩いて避難することが中々難しい状況です。例えば、緊急避難場所に行くのは大変なので、町内会館へ避難する。町内会館の老朽化も進んでいるので、耐震化と太陽光発電を整備し、一時避難場所とできないか検討いただきたいという意見を書かせていただきました。</p> <p>それと、もう1点は、ふるさと納税の関係です。最近、当初の目的と少し変わってきている部分があり、地域の特産品をもらうために納税するなど、意味合いも変わりつつある。ふるさと納税を推進していく以上は、地域の中小企業の活力を十分に活用し、新しい商品開発の指導や、そこで働く人達の雇用の拡大、安定雇用を含めて検討するという形が必要かと思います。新たな雇用につなげる形を検討いただきたいと思います。</p> <p>評価に対する意見ですが、社会情勢が変化していく中、進捗が上手く行かない取組は、情勢に合わせて見直しをするですとか、場合によっては中止をするなど、臨機応変な対応が必要だと考えています。順調に進んでいる取組についても、より情勢に合った内容に随時見直しをしていくなど柔軟な考え方でプランを進めていくことが必要だと思います。</p> <p>担当課、職員の方の努力により、ほぼ計画どおりに取組が進んでおりますので、そこについては評価をしたいと思います。以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p>

	<p>街路灯のLED化は効果が大きかったですよね。</p> <p>公地委員がおっしゃった危機管理ですとか、具体的にどのようなところに設置するのかは、BCPという危機管理体制の中で、具体的なものもあろうかと思いますが、そういった意見も担当部署にされたら良いと思います。</p> <p>それから、ふるさと納税も確かに以前と変わって、競争し合っていたものが、少し冷静になりつつありますので、地元中小企業の商品なども可能であれば、公地委員がおっしゃっていたやり方が基本かもしれないですね。</p> <p>事務局の方から何かございますか。</p>
事務局	意見を担当課に伝えてさせていただきます。
石森会長	次は、菅原委員からお願いします。
菅原委員	<p>行政改革というキーワードに必ずしもマッチしないことも意見として記載してしまいましたが、まず、行政改革プランの総論的な見方としては、行政運営に行革というキーワードを持ち込むことによって、解決しなければならない課題ですとか、それに対する取組や、プランニング等々を含めて、成果が顕著に見て取れます。これまでと同様、積極的に取り組んでいくことによって、住民へのサービスがより進んでいくのではないかと考えております。</p> <p>新たに取り組むべき点ですが、これは新たな視点とか、切り口という意味で捉えさせていただきました。今回のプランの見直しで、すぐにとということではないのですが、常に新しい課題を抽出する視点を持っていかないといけないと考えます。苫小牧市は、これだけ、北海道の経済なり、色々なことに大きな影響を与える都市になってきておりますので、現在もそうした視点で取組を随分されておりますけど、やはり周辺の地域を含めた中で、中核都市としての役割や果たすべき施策、そういったものをより具体化したり、可視化したりというのは、避けて通れないのではないかと考えます。それと行政改革プランとをどう結びつけていくのかはありますが、その辺が今後取り組んでいかなければならない大きなテーマではないかと思えます。現在は、公共施設について、既存施設の老朽化を含めた集約化や再編等々を取り組まれておりますけど、もっと基本的な道路などの基礎インフラも当然経年劣化が進んでおりますし、昔に比べるとメンテナンスがされていないようなところも増えてきているのではないかと感じます。色々な意味での危険回避も含めまして、基礎インフラをよりコストをかけずにどうメンテナンスしていくかという部分も今後大きなテーマになるか</p>

	<p>と思います。</p> <p>それから、プランの見直し点につきましては、色々と考えてみましたが、私は大きく方向修正すべきものは無いとっております。むしろ各部署で取り組まれているものの自主的な見直しですとか、選択を尊重すべきかと思っております。</p> <p>その他といたしましては、長年の取組の中で、こういった切り口で行政運営の点検をしていく、推進をしていくというのが随分と定着してきていると思います。あまり細微にではなく、もっと大きなテーマで、取り組む項目や論点を絞ったりしながら運営を続けていくことが、事務効率化を含め必要になってくるのではないかと思います。以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>確かに取組の項目数は多いですね。上手く統合するものは統合するなど、工夫の余地はあると思います。</p> <p>それと、御指摘のあった基礎インフラについて、老朽化に対する備えですとか準備は庁内で取り組まれているのですか。</p>
事務局	<p>昨年度に策定した公共施設総合管理計画が、いわゆるハコモノのほか、道路なども含めたインフラの今後の管理計画を定めたものです。</p> <p>苫小牧市は急激に大きくなった街ですから、我々としても、それらの更新については、大きな課題と認識しております。</p> <p>この総合管理計画が今後重要となると意識しております。</p>
石森会長	<p>将来の財政負担ですからね。</p>
事務局	<p>ハコモノがよく取りざたされますが、こういった基礎インフラも同じように考えております。</p>
石森会長	<p>港ができて50年経っておりますので、覗けば意外と老朽化している部分も多いと思います。まだ先のことに見えますが、その辺の取組も大事な視点かなと思います。</p> <p>次は、杉立委員お願いします。</p>
杉立委員	<p>私は、前回の平成28年度進捗状況や取組の有効性に対する意見として提出したものと重なっている部分が多くありまして、どういった視点で意見するのが難しいなと感じました。それとは視点を変えて簡単に意見を述べさせていただきたいと思っております。</p> <p>まずは、各テーマに対する意見ですが、テーマ6機能的な組織づくりは、私達にとっては、非常に難しく、わからない部分がたくさんあるなと思います。特に人事ですとか、役職や、給与関係に関しては、やはり中身には触れられない部分も出てくるので、今一步踏み込んだ</p>



	<p>意見交換ができないと感じました。その辺は、逆に市の方で、ある程度オープンにしていいただければ、委員も意見が言いやすいのかなと思います。</p> <p>次に、新たに取り組むべき点としては、苫小牧市の第三セクターの見直しについてです。これまで地域の発展や地域の活性化に貢献してきましたが、我々普通の市民が知らないような会社もたくさんありますし、現在のプランの項目でも2つほど出ていたと思います。例えば、アルテンですとか、昔で言いますと錦町地域の再開発ですとか、そういうところにも市から出資していますので、その中でも小さくて一般の市民がわからないような、出資会社については見直しに触れていくべきではないかと思います。</p> <p>次に見直すべき点ですが、平成28年までに終了した15項目の取組のうち、取組の内容によっては、終了するものと継続するものを明確に分けたら良いのではないかと思います。変化する社会情勢の中では、取組内容の見直しや変更によって、今以上に成果を上げて定着し、今後も持続的に促進するものと考えています。軌道に乗ったからプラン上では終了し、通常業務として継続していくというようなあやふやなことではなく、きちっと、完全に終了する項目と、この後も引き続きレベルアップしていく項目を明確にすることによって、もっとわかりやすい計画になると思いました。</p> <p>最後にその他行政改革に関する意見として、行政改革プランに関わっている担当部署で意見交換会を開いてはどうかと思います。自分達と違う部署では、また違う取組を行っているので、組織間のコミュニケーションをとる中で生まれることもあると思います。組織外の私達とだけではなく、組織内で年1回でも意見交換を行えば、お互いの共通点ですとか、この取組はこうしたら良いですとか、協力、効率、問題点が見えてくると思っていますので、実践してはどうかと思います。以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>意見交換会については、どうですか。</p>
事務局	<p>実は昨日、いただいた意見書の内容について、午前中のうちに市長をトップとして部長職で構成する会議にて意見交換をしております。午後からは、副市長をトップとして各部の次長職で構成する会議にて意見交換をしておりますので、これから各部において次長から各課においていくこととなります。庁内のイントラネットでもいただいた意見書を掲載していますが、そういった形での意見交換の場は設けてお</p>

	<p>ります。</p> <p>この先、行政改革プランの見直しにあたっては、行革担当と各課の個別のヒアリングを入れる予定でございますので、他部署の取組についても、見える状況ではあります。</p>
石森会長	意見書は、庁内で配っているのですか。
事務局	<p>昨日開催した会議で配布しているほか、庁内イントラネット、ホームページでも公表しています。</p> <p>この後、全議員にも配布することになります。</p>
石森会長	<p>出資法人については、全部押えていて、基準があるのですよね。</p> <p>例えば、赤字だとか、配当があるとかね。</p>
事務局	<p>出資法人については、毎年どういう状況かを調査しておりまして、把握しています。</p> <p>行政改革プランにも載っておりますが、100%出資の振興公社については、今年度をもって廃止する方向で手続を進めております。この先もまた、社会情勢も変わってきますので、第三セクターの在り方というのは、随時見直すものは見直していかなければならないと考えております。</p>
杉立委員	全部でどれくらいあるのですか。
石森会長	我が社もそうですが、結構ありますよね。
杉立委員	<p>結構あると思いますし、おそらく一般の市民の方は全くわからないと思います。勉強しないとわからない部分もある。</p> <p>毎年チェックしていると聞きましたが、赤字のところは無いのでしょうか。</p> <p>赤字かどうかだけでなく、今後もこういう形で進めていって良いのかなど、そこまでしていくべきではないかと思います。</p>
事務局	<p>そこについては、出資法人の現状、今後、出資を継続する意義、収支状況などの項目に渡り、毎年1回は見直しの俎上に上げています。</p> <p>これは継続が必要だ、これはもう少し様子を見て検討したほうが良いなど、それぞれの法人について毎年評価をしております、その中で、振興公社については、今年度限りで出資を引き揚げる。あるいは、平成27年度で土地開発公社を解散しております。</p> <p>今後も、杉立委員が言われたように、毎年見直しの俎上に上げた中で、必要なものは継続するし、必要でないものは引き揚げるような判断をしていきます。</p>
川島副会長	<p>前回の審議会にて私達はNEXTSTAGEの進捗などに対して色々な意見を出しました。それを市長、副市長や部長等々で議論をし</p>

	<p>ながら各現場におろして行きますというお話をされていましたが、そこで議論された内容、例えば、私達の意見に対して、どのように感じ、どのように今後進めようと思ったのか。</p> <p>そういったものは、どこかで私達に情報が戻ってくる機会があるのでしょうか。</p> <p>また、議員の皆さんにも、この審議会の意見を発信しておりますが、議員の皆さんが、私達の意見をどのように捉え、今後の行政に生かそうとしているのか。</p> <p>そういった答えが戻ってくる機会みたいなものは、どのように考えておられますか。</p>
事務局	<p>審議会から意見をいただいて、担当課の反応を審議会に戻すというよりは、どちらかという意見と意見を重く受け止め、しっかりと取り組ませるといった流れの方が良いと考えています。</p> <p>市議会についても、審議会からの意見書の内容を踏まえて、この取組が遅れているのは何故なのかですとか、しっかりと取り組むようにといった場面はありますが、特に市議会議員から、審議会の意見に対して、どうなんだというふうには戻ってこないと思います。</p>
石森会長	<p>それでは、次は須田委員からお願いします。</p>
須田委員	<p>各テーマに対する意見として、テーマ3とテーマ7について書きました。</p> <p>テーマ3の公共施設の適正配置と効率的な活用では、再編のキーワードは集約化と意見がありましたが、全くそのとおりではありませんけど、集約化だけでは、効果が少ないと感じています。また、テーマ7の協働によるまちづくりでは、市民の積極的な参加を推進と意見がありましたが、市民が議論に参加することは非常に大切で、市民も痛みを伴うことがあり得るということを各自が理解するという意味でも市民の参加は重要であると考えます。</p> <p>苫小牧市は2060年には、今の人口から6万人減少し、高齢化も進むという推計値もあります。我が街の維持継続のためには行政コストの更なる削減が必要で、市民の住居に関しても集約化が必要ではないかと考えます。例えば、住宅地の集約化。過疎化が進んでいる住宅地を廃止する。そのようなこともあり得るのかなと思います。また、一軒家の廃止、一軒家から集合住宅への転化など思い切った施策も一部進めるべきなのかなと思います。それこそ議論すべきことが大事です。</p> <p>池永委員が言われたように、私も去年、札幌から来たばかりですの</p>

	<p>で、感じたことをそのまま申し上げますと、駅を降りてびっくりしました。駅ビルが廃墟になっている。駅から降りたら目の前に廃墟の大きな建物がある。これって一体何だろう、駅前が死んでしまっている。駅前から、市役所までの黄金道路みたいな通路があって、そこには色々な人が集うような取組がなされなければならないだろうなと思いながらずっと見てきました。中心市街地の作り方というものを、もっとやらなければならないと思っています。そういうこともあって、中心市街地と住居となり得るような、少し離れた場所との拠点を結ぶことも大事なかなと思います。人口の過疎化が進んできた住宅地を廃止して、集約した拠点を作るというのも大事で、その拠点と中心市街地を結ぶネットワーク化も今後議論しなくてはいけないと考えています。同時に拠点を結ぶということは、公共交通機関であったり、地域交通だということを中心に大きな括りで、議論するべきではないかと思っています。</p> <p>新たにに取り組むべき点ということで、7つのテーマ以外に持ち上げるとすれば、このテーマだと思いましたので申し上げます。全国の50代、60代の知識や経験を持ったシニア層は、この後10年、20年間働けます。最後に北海道のために働こうとか、苫小牧のために働こうという人も結構いるはずですよ。そのような方を呼び寄せるような仕組みというのが大事なのではないかと考えます。人生の最後に、ふるさとのために働きたいと考えているシニア層は思ったより多いと思っています。私もこれまで同窓会の仕事を随分とやってきましたが、同窓会のOBの方から、仕事があれば、ふるさとに戻りたいという声を良く聞きます。そういうこともありますので、各大学等の同窓会とも連携し、大企業のエンジニア等のUIJターンを呼びかけるような取組をするのはどうかと考えました。地域の技術水準が高いプロジェクトができれば、新卒者も集まります。道内の理系人材を呼び込み残す。人材を残して新しいビジネスチャンスをつくり出すといったことにもつながります。現状の7つのテーマ以外に立ち上げるとすれば、人を呼び込むための働く場と新規ビジネスの創出といったテーマがあれば良いのでは考え提案しました。</p> <p>見直しすべき点、その他行政改革に関する意見などは特にございません。以上です。</p>
石森会長	<p>御意見ございませんか。</p> <p>どこかの時点で人口減少と高齢化というテーマで抜本的に見直す必要があるのかなと思います。その準備は、今から始めていないといけない。</p>

	<p>そういう考え方をこの審議会でも検討する必要があると思います が、事務局はどうですか。</p>
事務局	<p>プランの中にも、移住・定住促進に関する取組を載せておりますが、この先は、非常に重要となってくると思いますので、今の取組を拡充していくという趣旨を盛り込めるかと思います。</p> <p>シニア層に関する提案がありました。生産年齢人口を上げるべきという意見はこれまでもございましたが、須田委員のように元気なシニア層の活用といったところの話は出てきてなかったと思いますので、検討させていただきまして、今後の取組に活かせるのではと思います。</p>
中瀬委員	<p>実際に横浜市では、シニア層に対する総合塾ということで、市が全面的にバックアップしています。</p> <p>そういうところは人口も多くなりますし、併せて年金受給が65歳以上になると、65歳までは給与か自営で生活していかなければならない。やはりシニア層に対するビジネス支援は必要だと思いますので、市でも活発に議論していただき、そういう方向性を作っていくのは大事だなと思います。</p>
石森会長	<p>次は、滝本委員からお願いします。</p>
滝本委員	<p>私は、一市民、消費者としての立場で意見を書かせていただきました。</p> <p>まずは、各テーマに対する意見ですが、各テーマとも進捗状況はプランどおり進んでいるものが多いと思います。</p> <p>しかし、これからの人口減少などによる公共施設の複合化は足踏み状態が見受けられます。公共施設は、未来に誇れる建物であることを期待します。予算などで妥協したものを造ってはほしくないです。一度造ると、それがずっと残ります。他市からいらっしゃった方は苦小牧の駅前の過疎化というのが大変目に余るという御意見がありました。が、実際に住んでいる皆さんもそう思っています。これまで、たくさん努力されてきたのは聞いておりますが、打破できていない。同じくらいの人口の帯広駅に降り立ちますと、駅の近くに大変素敵な公共施設がありまして、そこで、色々な組織が活動しています。苦小牧と変わらない人口で、このように、まちづくりが上手く進んでいるのを目の当たりにしますと、やり方しだいで何とかかなと思います。</p> <p>次に、新たに取り組むべき点です。テーマ3のうち、労働福祉センターの在り方の検討についてですが、今まで労働福祉センターは市民から分離してる感がすごく強かったと思います。今度、市民ホールへの機能統合を考えているということは、大いに賛成です。労働福祉セ</p>

	<p>ンターという施設がどういうものか知らない市民の方が多いと思いますので、市民ホールと機能統合することによって知っていただく機会にもつながるかと思います。</p> <p>もう1つ、ゼロごみ推進は、市民に周知されていると思いますが、賃貸アパートの多い地域では、実は様々な迷惑をこうむっています。ごみの出し方が守られていない、それから転居の期間になりますと大型ごみまで、収集のところに置きっぱなしで行ってしまう、本当に目に余るというのがあります。賃貸住宅の管理会社の方に市から要請をして、ごみの出し方などを入居者の方に指導してもらおうという取組があっても良いのかなと思います。</p> <p>見直すべき点ですが、指定管理者の導入や民間委託などは進んでいますが、市民一人一人が行政に参加しているという実感を持っていないと思います。市民から企画の募集をして、行政に参加する機会を設けてはどうでしょうか。例えば30年後の苫小牧などと銘打ち、提案を募集する。実は20年ほど前にも同じような企画があって、その時には、苫東に野菜を作る施設を作ってはどうかと提案が出されています。実際に今はそれができていますよね。市民に考えている企画を募集するのはどうかと思いました。今の若い人はクラウドファンディングを使って事業を起す人もいますし、中学生や高校生でもアフィリエイトで稼いでいる人もいます。新しい頭で何か苫小牧市の事業などを募集してみると、私達が考えもつかない提案が中高生からも出てくる可能性もありますよ。そういった企画を是非やっていただきたいと思います。</p> <p>その他行政改革に対する意見として、若い人はインターネットやユビキタスが進んでいますが、一般の高齢者はついていけない人もおります。そういう人達が置き去りにされないような、取組も続けてほしいなと思います。以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>公共施設は、駅前にある方が効果も大きいですね。</p>
滝本委員	<p>駅を降り立ったときに綺麗な施設があったりすると、それだけでも感覚が違うと思います。</p>
石森会長	<p>予算を抑えながら、良いものを造るというのは、なかなか難しいですよ。だから良いものを優先させるという考え方もあるでしょうし。市民ホールは、どうするのですか。</p>
事務局	<p>正しく、そこに時間をかけて、市民の皆さんの意見をお聞きしています。あまり急がないで、時間をかけて考えているところです。</p>

石森会長	建設場所は決まったのですか。
事務局	正式決定まではしていませんが、東小学校の跡地を最優先で考えているとお示ししています。
石森会長	個人的な意見ですが、駅前は、やはりもう少し広げればと思います。王子さんの土地を貸してもらえらるなら、良い広場もできるかなと思いますが、あそこにハコだけができてしまうとなとは思っています。
松村委員	この間、初めて恵庭病院にお見舞に行きました。恵庭駅は何十年も見えていませんでしたが、恵庭病院と直結したような形になっていて、駅前がとても素敵でした。病院のおかげで。苫小牧よりも駅前の風景がいいなと思います。 公共施設もありますが、恵庭のようなやり方もあるのかなと思います。とにかく駅前の活性化に色々な知恵を絞っていただくとありがたいなと思いました。
石森会長	恵庭の駅前のビルには、図書館が入っているはずですよ。分館だったかな。
川島副会長	クラウドファンディングのお話も出ていましたが、例えば、苫小牧駅前のエガオ跡地などを市民目線、あるいはこの審議会からでも、こういうのが良いのではないかという提案をして、資金を税金ではなく外部から集めるような形、市民の皆さんから寄附を募るような形で、私達皆の建物みたいに創造していく視点なども、今後はあってもいいかなという気がしました。
公地委員	今は、バスターミナルのトイレは使えるのですか。一時、使えなくて、バスを待つときにココトマまで行かなくてはならないことがありました。 今ある建物も不便を感じて、利用しているということであれば、とりあえず今の段階で早急にやらなければならないこともあるのかなと思います。
松村委員	私が駅前で一番良く使うのはターミナルの立体駐車場です。JRで札幌を往復するときには使うのですが、老朽化がひどいですよね。今にも屋根が落ちてきそうな。駐車場ってすごく大事ななと思います。 あの辺も見直してもらおうと雰囲気は良くなるのかなと思いました。
石森会長	それでは、次に中瀬委員からお願いいたします。
中瀬委員	前提として考えなくてはならないのは、17万都市に相応しい、環境等々が整備できているのかという視点が大事だと思います。 先ほども、帯広市のお話が出ていましたが、私は仕事の都合で弘前市に1年半くらい住んでいましたが、駅前再開発の関係だと、バスター

ミナルを基点として、市内間の循環を含め、そこに集約化しています。駅前をどのような方向性で構築するか議論が必要だと思います。降りたら過疎化しているのが17万都市の駅前なのかという視点で物事を考えていかなければならないと個人的には思っています。併せて、苫小牧市民ホールとの関係ですが、やはり市民とどうタイアップして構築するかという観点で考えていかなければならないと思います。市民の意見を組み入れながら、今後30年以上使用できる、そのような市民ホールを建設しなければならないと思います。先ほど、須田委員から人口が将来6万人減少するとお話がありましたが、マイカーという観点で考えると、駐車場を300台、400台分造った方が良いですが、将来を見込んで考えれば、バスで市民ホールに行ける環境が必要となってきます。例えば、昨年岐阜県可児市の館長さんが来て講演していますが、ほかにも色々な成功事例もたくさんあるわけですから、研修を含めて成功している市に視察に行くとか、広域に渡った議論をしていくことが必要だと思います。

テーマ4では、家庭ごみの収集体制の見直しということで、昨年からは実施しておりますが、今後も戸別収集を進めるということを前提として考えるのであれば、予算の関係も当然ありますが、一番大事なのは高齢化が進んでいく中で、孤立ですとか防犯ですとか、生活弱者を守るということも含めて検討しなければならないと思います。新たに取り組む点としては、苫小牧市の人材育成方針が、平成24年度に改訂されておりまして、読ませていただきました。具体性に欠けているというのが、個人的な意見です。間違っていたら申し訳ありません。人口減少を見据え、市は少数精鋭の組織づくりが必要ということと、併せて専門性の高い職員の養成が急務になってくると思います。前回の審議会で質問しましたが、職員の研修予算が、29年度で869万円というお話でした。その金額の妥当性はわかりませんが、個人的には極端に少ないのではないかと思っています。今は民間企業も社員の教育予算を結構計上していますが、その背景は、将来の企業を背負っていける人材をどうやって育成するかという観点でやっております。年間計画の作成と予算化、それから職員の専門性というのはものすごく大事だと思いますので、育てる人材は、徹底的に育てるというような専門性を持った職員群像を作っていくことも必要だだと思います。学習風土の醸成や、業務改善の取組ですが、以前、私が働いていた会社でも、褒章制度というものがあまして、市で言うと、市長賞みたいなものですが、やはり喚起するような形で業務改善につなげていく



ことが良いのではないかと思います。職員の提案制度や、業務改革の発表会、併せて先進企業から学ぶということも大切だと思っています。苫小牧信用金庫の60年記念史を読ませていただきましたが、2009年に発行しております、非常に内容が濃いものです。苫小牧の将来像を信用金庫さんが明らかにしているわけです。やはりこういう良い物もあるので、企業から学ぶということも大事ではないかと思います。

市民サービスの向上では、情報の見える化が大事ではないかと思います。例えば、予算編成の公開、計画の策定状況の公開、先ほどお話のあった第三セクターへの出資状況なんかも、公開していく中で知ることにつながっていきます。市民も知っていかなければいけないということもありますので、必要な取組だと思っています。観光振興ビジョンの取組を書かせていただきましたが、商工会議所のサービス部会に参加しまして、そこで市から観光振興の方針の話がありました。内容は非常に良いと思いましたが、残念ながら17万都市の観光という視点で見ると、施策を含めスピードを持って取組が必要ではないかと思っています。17万都市に相応しい観光市という観点で考えると、乏しいのかなと思いますし、苫小牧市は日帰り客と通過型と多いということですが、宿泊延べ数ですと、釧路市が年間129万人、帯広市が102万人、苫小牧市が16万人となっています。同じくらいの人口で何故こんなに差があるのかということの問題視していかないといけないと思います。国際リゾート構想については、諮問委員と市民の連帯が必要で、議論していけたら良いのかなと思います。今後のバス路線というのも協議会を設置すべきだと思います。小樽市で、市長と中央バスが対立しているというような記事がありました。実際問題として、小樽市は60歳以上の人口が38.8%と、高齢化が進んでいる。そういう意味では、バス路線の在り方ということで、諮問機関も含め、しっかりと市が主導しながら考えていかないと将来は大変なことになるという感じがします。色々とお話を聞いたら、不便路線も結構あるみたいですので、駅前と市役所の関係等々を含め、どのような路線が良いのかということや循環型バスも考えていかなければならないと思います。17万都市で循環型バスを運行していないのは苫小牧市しかないという話も聞きました。高齢化を考えると検討していかなければならない課題だと思います。

テーマ7協働のまちづくりですが、町内会との連携、更なる加入促進というのが必要だと思います。ただ加入してくださいというのでは

	<p>なく、やはり色々なプレミアを付けながらやることも必要だと思います。民生委員の減少と消費者協会の会員の減少という記事が新聞に載っておりました。協働の観点で捉えた場合、市も積極的に参加して、会員拡大に取り組んでいくような施策も必要ではないかと思います。行政改革に関する意見としては、一番大事なのは機関運営の定例化という点で、例えば行政改革推進審議会を随時でなく定期的で開催するなど、そういった観点も必要ではないかと思いました。以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。 御意見等ございますか。 やはり人材育成、職員の研修のところは、これから大きいですね。</p>
事務局	<p>職員研修は、毎年工夫しながらやっているということを知ってもらうことが大事だと思いますので、発信の仕方を工夫していきます。</p>
石森会長	<p>民間に行ったりですとか、今までも色々取り組まれていますよね。そういうことをオープンにしていけば良いと思います。 それでは、次は中村委員からお願いします。</p>
中村委員	<p>私も、杉立委員と同じく前回提出させていただいた意見書と、見直しに関する意見をどのように違った視点でまとめることができるかというところに苦心いたしました。</p> <p>最初に各テーマに対する意見です。テーマ6の職員数の適正管理についてですが、この取組に関しては、正規職員のみが対象となっておりますが、非正規職員、臨時職員の実情に関しても、ここにまとめる必要があるのではないかと思います。これまで正規職員は努力された状態で削減してきましたけれど、反比例して非正規雇用が増えてはいないだろうか、又市のホームページでは、随時、臨時職員が募集されており、正規職員の補助業務を行う旨の説明が記載されているのですが、各部署には、臨時職員が仕事の内容に比例した状態で適正に配置がされているのかどうか、そのような実態についても確認できれば良いと思います。</p> <p>市役所の人件費、経費というものは、要するに全体的なものの把握で、その中に雇用形態別と書いておりますが、例えば、正規職員の割合、そして臨時職員の割合、任期付職員という制度もできましたのでその割合、こういった状態が明らかになると、私達はもっとわかりやすく把握ができるのではないかと思います。</p> <p>次に新たに取り組むべき点ですが、職員の人材育成、私はあくまで行政改革プランに視点を置きましたので、人材育成の一環に行政改革を個々の職員が考える研修などを設けても良いのではないかと思います。</p>

す。職員も私達と同じ市民としての立場も持っています。行政側の立場だけではなく、市民の立場で行政の在り方を考える研修を企画する。それによって市民的発想を持つ職員も増えますと双方の立場から見えてくる改善点への意識が高まってまいります。行政改革という、まず何の事業、何の対象かと事業項目に関心が集まりますが、社会状況というのは時代とともに変化してまいります。その変化に対応できる問題意識への高い感性を持つ職員の育成が今後においては、必要になってくるというふうに考えております。

見直すべき点は、かなり具体的な事例で書いてきてしまったのですが、各セクションも大変努力されているということをお大前提で、気が付いたところを列記しております。

No.2-7 公設卸売市場の指定管理者制度の導入は、自己評価がCになっております。Cの理由というのは、進捗状況シート特記事項に記載されておりまして、7月11日のこちらの審議会では、現在建物の劣化調査を行っているという報告が行われています。今現在、建物の劣化調査をしているという状態ですので、おそらく今後においても、予算若しくは時間が非常にかかるものではないかと思っております。プランには工程が示されておりますけど、これに関しては工程の修正を行い、慎重に進めていただけたら良いと思っております。

今までも何度か話題に出ておりますが、No.5-2 給与明細裏面への広告掲載は、電子化というのが、今後の取組予定に明記されておりますので、中止を検討されても良いのかと思っております。

No.6-6 特殊勤務手当の見直しですが、妥当性や必要性の検証を行うことが今後の取組予定となっております。ただ、残りの期間を全て妥当性の検証に費やすということであれば、あまりにも時間をかけすぎてないかという感じがします。是非とも来年度中の終了を目指すということを目指していただきたいと思っております。

その他行政改革に対する意見ですが、行政改革遂行のためには、これまで当たり前だと思ってやってきた仕事に対する大幅な見直しも、必要になりますが、全体最適の意識のもとというキャッチコピーを念頭に、変化を恐れずに進んでいただきたいと思っております。また計画はしたが、1年、2年と年次を追っていくごとに状況にそぐわないと認識される場合もあるかと思っております。そういった場合、私達日本人は、一度計画したものは中々後戻りできない国民性もありますので、客観的な評価をするとともに柔軟な姿勢で修正を加えたり、時には後戻りをするということも、勇気を持って臨んでいただきたいと思っております。以

	上です。
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>御意見ございますか。</p> <p>正規職員や非正規職員の数字は押えていると思いますので、それを見て、また審議させていただきたいと思います。</p> <p>見直すべき点ですが、具体的に私もこのNo.5－2は同感です。色々な事情はあるかと思いますが、こういった議論をしていきたいと思えます。</p> <p>また、柔軟性を持って、フレキシブルにという意見も委員全体の意見でもあると思いますので、こういった形で思い切って事務局にさばいていただきたいと思います。</p> <p>それでは、藤田委員からお願いします。</p>
藤田委員	<p>簡単に御説明させていただきます。</p> <p>各テーマに対する意見でございますが、行政組織の内部で完結する部分については、非常にいい形で進捗しているのではないかと思います。従前の組織の効率化であるとか事業の見直しは、もう一定レベルに達していると思います。ただこれは、前倒しで進んでいる、計画どおり、遅れているという部分で評価されるくらいに、やれば必ず成果が出るものに絞って取り組んでいただいていると思いますので、これから先は、実際にやったとしても本当効果が出るか若干チャレンジングな部分についても、取り組んでいかなければならないと思えますし、そこに新たな価値が付いてくると思っております。行政組織の内部だけでやる次のステップとして、組織外の法人・個人・団体との連携・協働を含めた新たな視点を加えていくべきではないのかなと考えています。今までは、どちらかといえば価値を守りながらコストを下げるといった指定管理者であるとか、削ることが中心だったと思えますが、次は、付け加えるというところも必要になると考えております。</p> <p>新たに取り組むべき点でございますが、取り組まなければならないことは、たくさんあるでしょうから、絞って書いてみました。これから一番の問題は人口減少というところだと思います。税収面だけではなく、街の存続自体が危ぶまれるということが、全国的に問題になっておりますから、苫小牧市でも、移住・定住促進の取組は実施しておりますが、ちょっと不足を感じております。もっと、ここは人が働ける、仕事のある街にしていかなければならないと思えますので、まずは、雇用の受け皿拡大について、これまでに無いところにチャレンジしていかなければならないと思えます。特に起業支援の部分ですが、企業</p>

誘致で体を成してきた街ですけど、段々と限界が近づいていると思います。この街から新しい業が生まれるということの全面的な支援を行政としても取り組んでいく形が必要だと思います。先ほど、須田委員からもお話が出ていましたけど、特にものづくりの街とまこまいと言いながらも、地場企業のものづくり企業は、ほとんど無いのが現状です。この地で製造業の起業を支援していく新しい芽を芽吹かせるという取組を考案していただきたいと思います。人口減になれば、商業的な部分には縮小してしまう可能性が非常に大きいですが。ものづくり、付加価値を新たに作っていくという業の場面においては、もっと違う動きができるのではないかと考えています。これは企業誘致がダメと言っているわけではないので、中小を含め企業誘致が引き続き、ものづくりをできるのであれば、どんどん集積していただきたいなと考えています。苫小牧市内には高専がありますし、近隣には室蘭工大があります。理系人材がものづくりで働ける起業支援、そういった部分を含めて雇用の受け皿拡大をしていただきたいと思います。地場企業として起業するのであれば、苫小牧を本社とするメリットをもっと拡大させていただいて、外から移っていただくとしても、ここで起業するとしても、メリットのある土地柄にしていただきたいと思います。

これからの行政改革については、地域内の業種別組合であるとか、協会等をもう少し上手く活用していただけないかなと思います。市内の同業種が一同に集まって色々なことができる能力を持っておりますので、こんなことができるだろうか、あんなことができるだろうかという部分、単に施設の指定管理者としてではなく、施策を考える面で、招き入れても良いのではないかと考えています。

人口減になった時、地域外から来ている業者は離れていく可能性もありますので、地域の既存業者を大切にするという意味も含め、業種別組合等を活用いただければと思います。起業支援をするにしても、既存の企業を活用するにしても、非常に高齢化が進んでおります。苫小牧市内の若い方は外に出たら中々帰ってこないという傾向にあります。子育て世代が働き盛りの世代でありますので、できれば、その世代に対するサービス向上も、雇用の受け皿拡大と併せて、取り組んでいただければありがたいなと思います。核家族化が進みましたし、子育てには大変な情勢になっているような実感を持っております。人口減対策の中心に書かせていただきましたが、他都市と比べて、この街はメリットがあるということを公言できるように行政改革プランに盛り込むことが必要ではないかと考えております。

	<p>見直すべき点、その他行政改革に関する意見については、御一読いただければと思います。以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございます。 御意見ございますか。</p> <p>人口減少で、将来お金が入ってこないことを考えて、その中でチャレンジングに市民サービスの追求を謳っていますので、工夫をして、住んでみたい街というところに重点化するなど、色々なやり方があると思います。</p> <p>やはり、人口減少を前提にもう一度組み立てる必要があるかなという印象を持ちますが、事務局でも色々と検討してみてください。</p> <p>それでは、次は松村委員からお願いします。</p>
松村委員	<p>ごく短く要点ということで、2点取り上げさせていただきます。</p> <p>まず、新たに取り組むべき点ですが、前にも一度、審議会で発表させていただきましたが、生活保護費に対する不正受給の取り締まりです。これを強化していかないことには、全国的にも扶助費は年々増加していて、北海道も苫小牧市も例外ではありません。本当に必要な方がおられる中、職業柄、数多くの不正受給を見ております。担当課で既にやられているとは思いますが、やはり、市としても今まで以上に不正受給に対しては厳しい目で対策を練っていただきたいというのが一つのお願いです。</p> <p>それと、行政改革には、直接関係無いように思われますが、全国的に東京にオリンピックが来るということで、受動喫煙に対する規制が取り上げられております。苫小牧市でもされているとは思いますが、中々、私の耳には入ってきておりません。北海道は、特に女性の喫煙率が高いということをよく聞きますし、病気の死亡率では癌が一番高く、北海道は全国で第4位に癌患者さんが多いということです。苫小牧市として、市民の健康増進を図り、またクリーンなイメージ、苫小牧市はスポーツ宣言もしている、男女平等参画都市宣言もしている、受動喫煙ゼロ宣言しているとイメージアップにつなげる。そのことが医療費の抑制につながり、行政改革として取り組む値があると考えました。</p> <p>最後に中瀬委員の意見の中で、一つ補足させていただきたいのですが、民生委員の減少という言葉がありましたが、正確に言いますと、民生委員の定数は去年の12月の一斉改選で1名増えております。増えたのは、市長もすごいなとおっしゃっていましたが、強いて言うと成り手不足です。減少ではなく成り手不足ということで意識していた</p>

	<p>だけるとありがたいと思います。以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>やはり、取るものは取るという発想もすごく大事で、昔、越後湯沢というところにマンションの色々な登記があって、誰が所有しているのかはわからないが、固定資産税を払わないということで、市の職員が取り立てのチームを作って回収したという事例がありました。不平等なものについては、取り締まるということも、色々な模範になると思いますし、今までと違った提案ではないかと思います。</p> <p>受動喫煙についても、確か栗林運輸さんが行っているのではないかと思います。職場でタバコを吸ってはいけないはずですが、体のことを考えると必要です。我が社も7割が喫煙者で、金一封を出すと言っても止めませんので、苫小牧市にとって非常に大きい問題だと思いますね。</p> <p>それでは、次は石田委員からお願いします。</p>
石田委員	<p>簡単に申し上げますが、各テーマに対する意見は、コンビニ交付とコンビニ収納の関係を記載させていただきました。今、マイナンバーカードで各種証明書をコンビニで交付したいという考え方で進んでいますが、苫小牧市のマイナンバーカードの発行率が何パーセントなのかを考えると、コストの面を考慮しても初期投資に見合うのかということをもっと考えた方がよろしいのではないかと思います。積極的にやるのであれば、マイナンバーカードの普及をもっと積極的に行わなければならないと思います。それとコンビニ収納ですが、私の勤務先が金融機関なので、色々コスト面を考えるとコンビニ収納の手数料と口座振替の手数料を比べると、随分と格差があるので、もっと口座振替収納を促進すれば、コンビニ収納手数料の半分以下で済むのではないかと思います。確かにライフスタイルの変化によって、収納率の問題もあるかと思いますが、収納率の増加とコストの増加、どちらがどうなのかということも検証される必要があるかと思います。</p> <p>新たに取り組むべき点ですが、移住・定住促進については、色々外向けの発信をやられているかと思います。ただ、今住んでいる若い人達に地元にはこういう良さがあるというアピールをもっとする必要があると思います。苫小牧の学生さんは、高校を卒業して、東京なり、札幌なりの大学に行っても、ほとんどが地元に戻ってきません。私どもの企業でも、苫小牧出身の方をたくさん採用したいのですが、今は2割から3割くらいの方しか採用できないので、やはり苫小牧という街で働くことに魅力を感じないのかとも思います。もっと小中学生や</p>

高校生にアンケート調査をするなど、色々なことをやられた中で、若い人の定住促進というものを含めて今後考えていく必要があると思います。一つの手法としては、苫小牧市内の企業さんにインターンシップを受け入れていただいて、学生に色々見ていただく、苫小牧で働いても良いという方を増やしていくのも一つの方法ではないかと思います。そのためには、地元で働く職場環境を作らなければならないというのが前提にあります。そういうことも行政として考えていくべきだと思いますし、地元に戻って来られるような支援策、就学支援ですとか、今は、ほとんどの方が奨学金制度を使って大学に行っている状況なので、そういうものを負担してあげる。極端なことを言えば、地元に戻って就職すれば、払わなくて良いとか、色々な支援策を考えていければと思います。

公共施設の適正配置ですが、駅を中心とした中心市街地の状況は惨憺たるものがあります。苫小牧市外の方が苫小牧駅を降りて、何だこの街というのが、皆さんおっしゃる感想です。ですから、やはり駅を中心とした中心市街地の再開発に早く手を着けなければ、若い人達が戻って来なくなりますし、市外の方も苫小牧というところに定住しなくなると思います。駅周辺には市の所有地もたくさんありますが、それが上手く活用されていないので、そういうところも含めて取り組まなければならないと考えます。JRも色々大変な状況であると思いますが、同規模の道内の市は既に駅がリニューアルされておりますので、その辺のところも、もっと働きかけても良いのではないかと思います。それが無ければ市の将来像に大きく関わる問題だと思いますので、行政改革とは相反する部分になるかもしれませんが、ある程度、先行的に取り組まなければならないと思います。

民間委託に関しては色々やられていることが、十分な効果を上げていると思います。幼稚園や、認定こども園など、民間委託することによって随分と前向きに運営されていると思います。プランにある市営住宅の管理業務だけではなく、税や料などの各種収納業務も委託化を進めるべきです。一概に全部を民間委託できるものでないことは充分承知しておりますが、できるものは民間にどんどん委託し、コストと市民サービスという部分もあるかもしれませんが、先ほどの生活保護費と同じように公平性が無ければ、税金なんて納めてくれませんし、自分達の税金がどのように使われているかという部分は、口には出さないが、十分興味を持って見ていると思いますので、そういうものを維持する意味でも、どんどん民間委託を進めていければ良いと思いま



	す。以上です。
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>コンビニ収納と口座振替のコスト比較という観点も、大事なポイントかと思います。</p> <p>何と言っても駅ですね。苫小牧の顔。市外から人を迎え入れるときに胸を張れないというのが現状ですよ。</p>
須田委員	<p>新たに取り組むべき点で、移住・定住についての意見、正しくそのとおりだなと考えておりますが、室蘭工業大学でCOCプラスという事業が文科省で採択されて動いています。</p> <p>一部、苫小牧市役所の方も連携して動いていると聞いていますが、その中で、高専若しくは理系大学に行っている学生さんにアンケート調査を大々的にやまして、何故地元に残らないのですか、地元に残るキーとなるファクターは何でしょうかという調査をすると、実は勤務地はどこでもいいという話だそうです。</p> <p>やりたい仕事をやる。やりたいことが地元であれば更にいい。できれば地元に残りたいが残れないというような内容でして、考えてみると飛行機も昔と比べて安くなりましたし、昔は東京に就職して行くというのは相当覚悟がいる状態だったんですが、今や数千円で帰って来られるという状況になりますと、土地柄ではなく、やりたい仕事ということになるかと思います。うちの学生さんにアンケート調査をすると、やはりOBがいるかどうか、尊敬できる人がいるかどうか、そういう点で就職先を選んでる。あくまでも仕事内容です。ですので、地元企業には、理系人材にきちっと仕事内容を示していただきたいと思えますし、インターンシップについても、相当計画しながらやっていたくということになるかと思います。うちの高専の場合だと、ほとんどが内地の企業にインターンシップに行ってます。旅費も全部支給です。そういう状況であって、地元の企業に中々行かないという状況にあります。</p> <p>その辺は、行政とも色々と考えながら進めていきたいなと思います。私キャリア教育センターとあって、学生の行き先を決めるところにいますので、石田委員の言われるところはすごく感じる場所でありました。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次は、川島副会長からお願いします。</p>
川島副会長	<p>最初に各テーマに対する意見ですが、公共施設の適正配置と効率的な利用で、市民ホールの在り方という点を触れさせていただきました。</p>

こういったホールの設置に関して、目標利用度、あるいは設備の利用度といったものの測定基準を是非導入してもらいたいと考えています。大きく立派な建物、運営事業者の使い勝手が良いものというところも確かにあると思いますが、人口減少という中で、将来の利用者が本当に長期的・安定的に施設を使ってくれるかというところも吟味して検討を進めていく必要があるのではないかとこの点を指摘させていただきます。

民間活力の積極的な活用という点ですが、原則、できるだけ民間委託を積極的に進めていく必要があると考えます。ただ、その中でも、できる限り地元事業者が受注をできる環境を作っていただきたいとします。地元事業者の受注率という点をキーにした指標で、民間委託と地域経済への波及というところの物差しを作っていただきたいと考えています。

協働によるまちづくりに関してですが、やはり、苫小牧市全体の教育力を引き上げる施策も必要かと思えます。ここで取り上げるべき話なのか、わからないですが、授業の質を何らかの形で引き上げるという点で、最近コミュニティスクールがよく活用されておりますが、こういったものを活用しながら、充実した学校運営が成されているのかどうかという外部評価の指標を作っていただきたいと思えます。各小中学校の関係者、PTAの皆さんは御努力されておりますが、それが外向けの情報として、どこまで出ているのか。外向けの情報が出ることによって、自分達のエリアとの比較もできるのではないかとこの点でも、そういった視点が今後は必要ではないかと思えます。

新たにに取り組むべき点ですが、指定管理者に関しては、モニタリングの結果が新聞紙上で公表されていましたが、ああいった結果は、どんどん外部に公表していただきたいと思っています。

その中で、アンケート項目の中に外部の視点というの盛り込んでいただけたら、より良いのではないかと思えます。その施設の関係者・利用者だけの満足度で見ていくと、ほとんどの方が良かったという形で、アンケートの数値が固定化してしまう危惧があると考えていますので、そういった項目も是非取り入れていただきたいと思えます。

事務事業の継続的な見直しですが、事業推進に関するコストという点で、先ほどもコンビニ収納のコストのお話がありましたが、そういったものを色々と考えていく必要もあるのではないかと思えます。福祉に関してはコストで計れないものがありますが、とはいえどこまで経費がかかっているのかというのは、常に発表していく必要があるの

ではないかと思いました。

期日前投票ですが、是非、苫小牧駒澤大学にも次回の選挙では投票所の開設をお願いさせていただきたいと思っています。

そうすることによって、学生の選挙に対する意識が高まっていくのではないかと考えます。

職員数削減のお話も出ていましたが、現状を見ると1人当たりの業務量はどんどん増えています。責任を多く持つ正規職員の負担はどんどん大きくなっていく。その影響で、日常業務の範囲が、固定化し狭められてしまうのではないかとこのことを危惧しています。新しいチャレンジもできなくなってしまうのではないかと考えます。それを改善するには、職員の皆さんの創意工夫と、付加価値のある仕事という形で組織づくりをできる限り組織横断的に構成していただく、各部署から一人ずつ人を出して、まちづくりプロジェクトチームみたいなものを設置して進めていく。数は多くなくて良いと思いますが、年に1・2回くらい、プロジェクトを設置し、横の連携を深めていくような工夫をしていただけると良いと思いました。

次に見直すべき点ですが、新たな財源創出と効率的な財政運営です。Wi-Fiの話題が出ていましたが、私はできる限り市内全域にWi-Fiを設置いただき、いつでも、どこでも使えますという取組をあえてやっても良いと思います。そのことによって観光で苫小牧市にいらっしゃった方が、スマートフォン等で情報をすぐに見ることができる。企業誘致に関しても、こういった環境が整っているのが進出のきっかけになるのではないかと考えております。コストのかかる話なので、どこまでというのはあるのですが、やはりWi-Fi環境は、当たり前になっているのが、最近の傾向だと思いますので対策をお願いしたいと思います。それから、ふるさと納税の話題も出ていましたが、やはり取組終了というのではなく、もっと工夫が必要ではないかと思えます。特産品をもらえるから便利という議論が進んでいますが、ふるさと納税は寄附控除という本来の趣旨に立ち返って、私達の街はこういうふうにお金を使いたいというのをアピールしながら寄附を仰ぐということをもっと進めていただきたいと思います。

協働によるまちづくりという点ですが、今はパブリックコメントという形が成されていて、市から色々な提案がされたときに1か月くらいの期間で意見を受けていますが、結果を見ると1件だとか0件だとか、本当にパブリックコメントの役割をしているのかとところを疑問に思っています。おそらく運用の仕方に関わる大きな問題があると考えてい

	<p>まして、行政の新たな提案を市民の皆さんにわかってもらえるような伝え方をしているのかという点を考えていけたら良いのではないかと思います。市民が私はこう思うと、時間をかけて書いてきてくれた意見を、これはわかった、これはわからない、それだけで終わりにしてしまっていて、フィードバックが欠けているのではないかというものもあります。そうすると、せっかく自分の意見がどう反映されるのかを楽しみにしている市民の方が、もう二度と出すものかということになっては、元も子もないので、どうやって市民の声を汲み取るかという視点が必要になると思います。行政と市民の間をつなぐ架け橋になるような方をどこかに配置して、この提案の内容はこうですよと噛み砕いて説明し、市民からの意見に関しては、これはこのような形で検討していますよ、というようなクッション役が必要ではないかと思っています。せっかくのパブリックコメントが形式だけで終わるのは、もったいないと感じます。</p> <p>進捗状況シートですが、自己評価や取組内容は記述されていますが、到達目標は何なのかという点がわかるように作成いただけるとありがたいなと思います。一時的な取組内容を見て評価するには非常に考えてしまう部分があるので、取組の最終目標を随時わかるように作成いただけると良いと思います。</p> <p>最後にその他行政改革に関してですが、タイムリーに内容をどんどん見直しすることと、各部署が所管している審議会の連携なども今後は必要ではないかと思っています。重なった内容で議論している部分も見受けられますので、重なった議題のときは合同の審議会もあって良いのではないかと思っています。以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、最後に私の意見も簡単に説明させていただきたいと思います。</p> <p>テーマ1です。私も何度も市役所を訪れますが、一括した総合的な窓口があると良いなと感じます。ITを上手く活用して市の方で整理ができれば、マルチサービスが可能であると考えます。それから、ホームページの充実。これは、市役所の顔でもありますので、気を使った方が良いと考えます。</p> <p>民間活力の積極的活用でございますが、先ほどインフラの老朽化の話が出ておりましたが、まちづくりや色々な施設整備の問題は、行政改革的な発想からすれば、どのように資金計画、資金調達ができるか、色々な仕組みを内部で研究会を作り、効率良く民間と公的なものをミ</p>

	<p>ックスできるかを踏まえ、内部に専門家を入れて勉強を開始すべきではないかと思います。これから上下水道、橋、道路、港湾など、色々と金のかかるものも、出てくると思います。</p> <p>それから、公共施設の適正配置ですが、これまで、苫小牧市内の議論をしておりますが、周辺の町村でも施設を持っている場合もありますので、それらとどのように連携していくのか検討していく。そういう時代もくるのではないかということで、これは問題提起でございます。事務事業の継続的な見直しでは、やはりBCP対策、危機管理システムの総括的な考え方をしっかりと取り入れて、市民の安全というものを整備していただき、金をかけるものはかけ、統一すべきものは統一するべきではないかと思います。テーマ6機能的な組織づくりは、職員の研修を充実させてほしいと思います。特に、私は今、IRを担当していますが、語学が堪能でなければ騙されてしまいます。市の担当者は、英語が話せるので良いのですが、やはり、そういう時代だと思えます。また、ITに強い人材を育成して、専門業者に丸投げするのではなく、自らが保持できるようにするというのも大事ではないかと思えます。</p> <p>最後に、行政改革に対する職員への啓蒙について、これまでも非常に良くやっていると思いますが、引き続き強化していただき、もう一方では、市民への丁寧なPRを是非色々な形でお願いをしたい。それから、審議をする上では、財政的な数字を常に机の脇に置いておくということでお願いしたいと思えます。以上でございます。</p> <p>委員の皆様から意見をいただきましたが、まとめて御質問等はいかがでしょうか。</p> <p>それでは、皆さんの意見が書かれた資料を事務局に引き取っていただき、答申書の案を作成いただきたいと思います。</p> <p>最後に全体をとおして御意見等ございますか。</p> <p>それでは、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>委員の皆様からいただきました見直しに関する意見等を踏まえまして、事務局にて答申案を作成いたします。</p> <p>来月に開催予定の次回の審議会にて、答申案をお示しし、追加・修正していく作業に入らせていただきたいと思います。</p> <p>次回の審議会については、来月中旬頃を予定しております。時期が近くなりましたら、御案内させていただきますので、よろしく願いいたします。</p>
石森会長	<p>それでは、本日の審議会を終了いたします。</p>

	ありがとうございました。
--	--------------